

## 令和3年度学校評価に係るアンケートのまとめ

### 1 学校経営

- ・生徒アンケートの項目「私は毎日充実した学校生活を送っている」に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合（以降、割合についてはこの2つの回答合計の割合とする）が94.2%、保護者アンケートの同項目も91.2%と共に高い評価を得ており、学校生活全般に対する満足度が高いことがうかがえる。
- ・昨年度課題として挙げられていた「学校は子どもの学力向上について熱心に取り組んでいると思う」と答えた保護者の割合は昨年度79.1%から81.3%と増加した。Teamsを活用した課題や来年度を見据えた一人一台端末を想定した授業改善など、今年度は教員・生徒共にICTの活用がさらに加速した結果だと考えられる。
- ・行事の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために規模を縮小したり、保護者の参観人数に制限を設けたりすることが多かった。感染を防ぐ手立てを講じるとともに、制限の中でまずは生徒の活動する機会の確保を目指した。特筆すべきは、こういった状況下で「LHRや生徒会活動に積極的に取り組んだ」とする生徒が一昨年度58.3%、昨年度89.3%、さらに今年度は92.7%と大幅に増加していることである。制限された状況の中、生徒自らが主体的に、最善の方法を模索した経験は貴重であり、本校の教育活動の成果といえる。

### 2 学習指導

- ・生徒アンケート項目「授業内容の説明は、丁寧でわかりやすいものが多い」と答えた者の割合が85.7%で、前年度を上回っている。その他にも「副教材（プリント）のわかりやすさ」96.3%、「熱意のある授業」88.5%といった項目も高い数値を示している。わかりやすく、興味を持つことのできる授業が多いことがわかる。ICTを活用した授業を推進してきたことが効果を上げているのではないと思われる。
- ・「理解を深めるための体験が取り入れられている」に関しても昨年度91.8%から今年度94.1%と増加したのは、本校が「学びの変革」発展プロジェクトのモデル校の指定を受けて「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を行っている成果と思われる。
- ・今年度はGIGAスクール構想に伴うネット環境の整備を受けて、各教科で授業開発を行ってきた。来年度は「一人一台端末」の持つ可能性を追求し、様々な学びのスタイルを構築していく予定である。
- ・学校関係者の協議では「探究する力の育成、主体的な学びを可能にする授業を行うべきである」という意見もいただいた。生徒の現状を分析し、カリキュラム・マネジメントや総合的な探究の時間の活用を通して、社会で必要とされる「課題解決能力」の育成に努めるような授業改善を行っていく。
- ・生徒アンケートにおいて「私は予習（または復習）をするようにしている」の割合が39.9%と昨年度の39.2%から微増したものの、顕著な成果は見られない。現在行われている学習時間調査やスタディ・サポート等のデータを分析して生徒の実態を把握し、効果的な方法を考え具体化していく。

### 3 生徒指導

- ・生徒アンケートの規律の遵守に関わる項目についてはどれも高い評価である。規範意識の高い生徒が多いことがわかる。
- ・いじめに係るアンケート（年3回）を活用し、丁寧な面談をするなどしていじめの早期発見・早期対応に努め、いじめ対策委員会を随時開いて組織で対応しているが、さらに生徒の様子を注視するとともに、いじめの未然防止等の取組（啓発活動、アンケート等）を一層進めていく。「保健指導」や「進路指導」とも絡めながら多面的なアプローチで生徒理解に努める。

### 4 進路指導

- ・生徒アンケートの項目「学校では進路に関する情報が提供されている」の割合が昨年度87.6%から92.8%、「先生は進路についての話や適切なアドバイスをよくしてくれる」の割合が昨年度78.1%から83.0%と今年度増加している。保護者アンケートの項目「学校は就職や進学に関する進路情報を十分に提供している」に関しても、昨年度70.0%から75.6%と増加している。進路情報の積極的な提供や進路について考える機会を増やしたことで一定の成果を挙げることができたのではないかと。
- ・生徒に対しては、LHR、総合的な探究の時間等で、進路に関する意識付けや発達段階に応じた情報提供に一層努めていく。
- ・保護者に対する情報提供の機会を増やし、三者懇談、保護者進路説明会、HP等で十分に情報が伝わるよう工夫していく。

### 5 特別活動等

- ・部活動については、生徒の73.5%、保護者の78.9%が「熱心に・生き生きと取り組んでいる」と

回答しているものの、保護者については昨年度82.7%から3.8%減少し、過去6年間で最低値、教員についても部活動活性化について83.6%と他項目が軒並み90%を超えている中、最も低い値となったため自己評価を「B」とした。新型コロナウイルス感染症に対する対応が求められる中、活動時間や指導方法など、価値観の変容が求められている。

- ・練習と休養のバランスを取りながら、また、家庭学習時間の確保も念頭に置きつつ、生徒がより高い目標をもって主体的・意欲的に取り組めるよう効果的な指導・支援の在り方を模索し、改善につなげていく。

## 6 学校図書館

- ・生徒アンケートの項目「図書館を利用したことがある」は56.2%と低い。
- ・図書委員による読書週間の呼びかけや図書館を活用した探究的な授業の展開、学級文庫の取組を充実させるとともに、図書館主催のワークショップ「ブックカバーづくり」など魅力的な催しを企画するなどの取組を継続・充実させていく。

## 7 保健指導

- ・生徒アンケートの項目「先生は心身に不調を生じた際は、親身になって対応してくれる」とする割合が、年々増加しており、今年度は83.4%となっている。一方で、「私は悩みや相談事があれば気軽に話せる先生がいる」の割合が58.5%、保護者アンケートにおいても「子どもに関する悩みがあれば学校に相談しようと思う」が73.8%であり、他の項目と比較して低かったため、学校関係者評価では「B」とした。
- ・支援の必要な生徒について、保健室と学年が連携して、丁寧に対応してきた結果が徐々に出てきている。
- ・個別対応が必要な生徒については、保護者や相談機関、医療機関との連携を深め、組織全体で支援していく。

## 8 人権教育

- ・生徒アンケートにおける人権教育に関する項目については、「人権学習を通じて人権尊重の意識が高まった」「人権学習について熱心に取り組んでいると思う」の割合が9割前後を占めるなど、高い評価である。グループワークや講演会、フィールドワークなど豊かな深い学びを全職員で支え、実践している。
- ・本校では今年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受け実践を重ねている。今後もこれまでに培った手法を生かしながら人権教育に関する取組を継続していく。

## 9 環境教育

- ・「清掃活動」に関する項目は9割の生徒がしっかり取り組んでいる、と答えている。
- ・総合的な探究の時間等を利用しながら清掃活動にとどまらない「環境教育」に取り組む。

## 10 事務・管理

- ・施設の老朽化が激しく改修の必要な箇所が多いものの、順次改修や修繕が進んでいる。
- ・今年度は、屋上防水、校舎内トイレの全面改修、第1調理室の改修とIHコンロ設置とボイラーの修理、被服室の床の修繕と電子ミシンの設置、手洗いの自動水栓化を行った。

## 11 その他学校の取組

- ・地域や大学との連携を深め、さらに特色ある「開かれた学校づくり」を目指す。
- ・今年度はコミュニティ・スクールの導入初年度に当たる。より効果的な地域協働の取組を進めていく。